



日本共産党  
島田 一徳 議員

### 問一 福祉行政について

**Q** 高齢者の社会参加充実に関連し、①4回実施したバスの実証運行を今後どう活かすのか。結論を急いでほしい。②鉄道部門再生の展望は。

**A** ①運行主体など、新たな公共交通の構築に向け関係部局で協議している。②北目線の存続を最大の目標の一つに掲げている。

**Q** 不採算部門は切り捨てるのが資本の論理。便数や運賃の問題など、住民とともに論議する姿勢を持ってほしい。

**A** いろいろな意見を拝聴し、言うべきことは言う。

**Q** 自由に乗降できるバス、接近を知らせるために音楽を流しながら走るバスはどうか。

**A** おもしろいと思う。十分検討させていただきたい。

**Q** シニアカーを利用しやすくなるように制度の構築を。

**A** 介護保険で国が定める基準があるが、総合的に新しい公共交通のあり方として論議したい。

**Q** 国保の都道府県化について、本県が遅れている理由は。

**A** 納付金の積算が遅れている。

### 問一 教育行政について

**Q** ①なぜ、いま道徳の授業化なのか。②評価はどのようにするのか。

**A** ①いじめ対策や情報モラル等の低下という指摘などが背景にある。②5や4などの評価はせず、文章で記述するようになる。

**Q** ①文科省も認める教師の多忙化に上乗せすることになるのでは。②多忙化解消の方策は。

**A** ①道徳の授業は現在も行っており対応していけると思う。②パソコンソフト等を活用し効率化を図るのも一つと認識している。

**Q** 教育現場での多忙化の実態を把握すべきでは。

**A** アンケート形式の時間外勤務の状況調査を本年度から年3回実施している。

【その他の質問項目】  
◇産業振興について



平成会  
濱崎 清志 議員

### 問一 町内会・自治会について

**Q** 人口減少や高齢化が進む中、町内会・自治会のあり方についての認識は。

**A** 自主防災組織の活動への支障や、役員のなり手不足などの問題が出てくる。全国的には地域の各種団体が参加して新たな地域コミュニティ組織をつくり、住民自らがまちづくりに取り組む先進的な自治体もあり、本市でも視察や市民勉強会を実施してきた。地域づくりの問題意識を共有しながら市民とともに取り組んでいきたい。

**Q** 町内会・自治会の運営補助金について。世帯数が最も少ない町内会は6世帯とのことだが、100世帯、200世帯あっても集会場等も設置している組織は運営が非常に厳しい状況である。これらの運営補助金は同じ取り扱いでよいのか。

**A** 町内会・自治会への運営補助金

は合併時の調整において、均等割2万5千円、世帯割1200円に統一されている。自治公民館等の経費がかかることは承知しているが、自らの財源の中での運営が基本だと考えており、現行の枠組みで対応したい。

### 問一 スポーツ振興基金について

**Q** 基金残高の状況は。

**A** 平成28年度末時点で、教育委員会が所管するスポーツ振興基金は約6857万円、ふるさとしまばら応援基金のスポーツ振興分野での寄附金が1231万円である。

**Q** 本市の全国・九州大会への出場補助金は雲仙市、南島原市より支給基準が低い。基金を活用して子供たちのスポーツをバックアップできないか。

**A** 厳しい財政状況だが、検討していきたい。

【その他の質問項目】  
◇ふるさと納税について  
◇職員の地域貢献応援制度について  
◇公共交通について